

## 「企画力・運営力アップセミナー」

### 1 趣 旨

- ・主体的に社会に参画しようとしている青年を対象に、事業の企画・運営に関する学びの場を提供することで、リーダーシップや人間関係能力及び問題解決能力などの諸能力を身につけ、将来のリーダーとなるために必要な資質の向上を図る。

### 2 事業の概要

- (1) 期 日 平成27年6月12日(金)～14日(日)【2泊3日】
- (2) 参加者 15名(大学生8人、社会人4人、高校生3名) ※募集20名
- (3) 講師 NPO 法人生涯学習サポート兵庫 副理事長 榎本英樹 氏

#### (4) 研修内容

1日目	夜	○オープニング・日程説明・アイスブレイク
2日目	午前	○講義・演習Ⅰ「冒険プログラムのトビラをあけてみよう」
	午後	○講義・演習Ⅱ「企画スタートは社会の課題 or アナタがやってみたい？」
	夜	○講義・演習Ⅲ「アナタの企画の『こだわり』は？」
3日目	午前	○講義・演習Ⅳ「アナタの企画に、参加してもらうために」
	午後	○講義・演習Ⅴ「ワタシが考えたプログラムは！」 ○ふりかえり・クロージング

### 3 成果と課題

#### 〈成 果〉

- ・ 事業を企画・運営するために必要な知識・技術を学ぶ場を提供するため、「兵庫県徒歩横断 150km チャレンジウォーク」「無人島一週間自給自足生活挑戦」など、兵庫県内で冒険プログラムをプロデュースしている榎本英樹氏を講師として迎えた。講師から企画・運営について、経験に基づいた話を講義・演習以外でも随所に聴くことができ、「なかなか普段、学校では学べない視点や物事のプロセスについて学ぶことができた。」「仲間と企画を立ち上げてつめていく方法を学ぶことができた。」の声にもあるように参加者にとって新しい学びや気づきが数多くあった。
- ・ 講師と参加者の情報提供、講義・演習の内容について開催前に意見交換をした。「今後の活動に役立てられる内容だったと思う。」という声もあり、参加者にとって有益な事業になった。
- ・ 当施設の立地状況を考慮し、余裕をもった日程とするため今年度も金曜日の夜からの2泊3日で実施した。金曜日の夜に講師が用意したクイズについて参加者同士が教え合うなど、初日から3日間を通して和やかな雰囲気の中で、コミュニケーションを図ることができた。
- ・ 例年、島根大学生が中心であったが、県内の高等学校教諭・地元の高校生・諫早青少年自然の家職

員（長崎県）など、今年度は参加対象の広がりが見られた。2日目以降、参加者同士で個々の特性を認め合いながら、5人のグループを3つ結成して体験活動プログラムの企画案を作成した。どのグループも学生や社会人の視点から活発に意見交換をし、学び合うことができた。

- ふりかえりのアンケートで「温かく見守ってくださっていて、考える時間を設けていただき、困っている時は優しい言葉掛けをしていただいた。」「助言により改めて自分の意見について考えさせられるものが多かった。」という意見があった。参加者が企画をブラッシュアップし、問題解決する時間を適宜設け、講師と職員は様子を見ながら助言を必要最低限に留めたことが、参加者の問題解決能力の向上を図る上で有効であった。
- 各グループの企画案を「参加募集説明会」という形式で発表し合った。3つのグループとも自分たちの企画を聞き手に分かりやすく伝えるため、発表の仕方やまとめ方を工夫した。「最後の発表では失敗してしまいくやしくて泣いてしまったが、このおかげで今の自分の言語・感情のつたなさが身にしみて分かりました。」と発表で上手くできなかつたと感じた参加者がいたが、これから発表するときは要点を分かりやすく伝えていきたいと意欲的であった。3つのグループとも創意工夫を凝らし、練習を重ねて発表したことにより、参加者のプレゼンテーション能力の向上が図れた。
- セミナー後、将来、青少年教育施設に勤務し、体験活動プログラムを企画運営したいという参加者も現れた。是非とも実現してほしい。

#### 《課題》

- 参加人数が募集人数を下回った。要因の一つとして、法人ボランティアが多く所属する島根県立大学出雲キャンパスの行事と日程が重なったことがある。今後、法人ボランティアが所属する学校行事との兼ね合いを考慮して日程の決定する必要がある。
- 企画案を完成し、発表までは、今回のセミナーで実現でき、参加者の企画力は高まった。だが、実際にこの企画案を運営する機会がないことが残念である。運営する場も提供して、初めて「企画力・運営力アップセミナー」と言えるので、運営の場を設定する機会を見出していきたい。

